

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(1)-ウ	陸上交通基盤の整備	施策	① 各拠点を結ぶ道路網の整備
			施策の小項目名	○陸上交通基盤の整備
主な取組	那覇空港自動車道の整備		実施計画記載頁	177
対応する主な課題	②道路は県民生活や経済活動を支える上で重要な役割を果たしているが、広域交流拠点と各圏域拠点間の有機的な連結が実現しておらず、交通渋滞が慢性化している状況であることから、体系的な幹線道路ネットワークの早期構築が必要である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
那覇空港と沖縄自動車道を連結し、本島中南部・北部の各拠点の地域振興の支援、物流の効率化及び交通混雑の緩和を図るため、高規格幹線道路として那覇空港自動車道(小禄道路)の整備を行う。		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
実施主体	国					
担当部課【連絡先】	土木建築部道路街路課		【098-866-2390】			
		小禄道路の整備				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名 道路交通円滑化改築事業(国道506号)							R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: 国直轄で、小禄道路の整備を行った。県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回(5月、11月)行った。 ○R元(H31)年度: 国直轄で小禄道路の整備を行う。県は当該事業の促進を図るため、引き続き国に対し、早期整備や必要予算の確保等の要望を行う。
国直轄	その他	—	—	—	—	—	—	国直轄	
予算事業名 国直轄事業県負担金(国道506号)							R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: 国直轄で、小禄道路の整備を行った。県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回(5月、11月)行った。 ○R元(H31)年度: 国直轄で小禄道路の整備を行う。県は当該事業の促進を図るため、引き続き国に対し、早期整備や必要予算の確保等の要望を行う。
県単等	負担	114,050	185,144	371,336	355,014	467,000	637,000	県単等	

様式1(主な取組)

活動指標名	小禄道路の整備				H30年度			H30年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	整備の実施	整備の実施	整備の実施	整備の実施	整備の実施	—	100.0%	467,000	順調	国直轄で、小禄道路の整備を行った。県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回(5月、11月)行った。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 小禄道路の事業進捗率は約54%で整備は着々と進んでおり順調とした。取組後の効果として、広域交流拠点と各圏域拠点間のアクセス改善が図られ、県民生活や観光客の利便性向上及び産業の振興に寄与する。
活動指標名	—				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
活動指標名	—				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成30年度の取組改善案					反映状況					
①県としては、国に対し、早期整備の要望を積極的に行う。					①県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回(5月、11月)行った。					

様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

—

○外部環境の変化

・本県の自動車保有台数は毎年2%程度増加しているほか、レンタカー車両数は約12%増と高い伸びを示している。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・自動車保有台数やレンタカーの増加等に伴い、今後もさらなる交通量の増加が見込まれることから、当該道路の早期整備が望まれる。



4 取組の改善案(Action)

・引き続き国に対し、早期整備の要望を2回行う。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(1)-ウ	陸上交通基盤の整備	施策	① 各拠点を結ぶ道路網の整備
			施策の小項目名	○陸上交通基盤の整備
主な取組	沖縄西海岸道路の整備		実施計画記載頁	177
対応する主な課題	②道路は県民生活や経済活動を支える上で重要な役割を果たしているが、広域交流拠点と各圏域拠点間の有機的な連結が実現しておらず、交通渋滞が慢性化している状況であることから、体系的な幹線道路ネットワークの早期構築が必要である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
中南部圏域西海岸の地域拠点、広域交流拠点(那覇空港、那覇港)、高規格幹線道路(沖縄自動車道、那覇空港自動車道)を相互に連絡し、物流の効率化、交通渋滞の緩和を図るため、地域高規格道路として沖縄西海岸道路の整備を行う。		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
		浦添北道路 暫定供用				
実施主体	国					
担当部課【連絡先】	土木建築部道路街路課	【098-866-2390】				
		読谷道路、北谷拡幅、浦添北道路、那覇北道路等の整備				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名 道路交通円滑化改築事業(国道58号)							R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画	
主な財源	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OH30年度: 国は、北谷拡幅や読谷道路等の整備を行った。県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回(5月、11月)行った。	
国直轄	その他	—	—	—	—	—	—	国直轄	OR元(H31)年度: 国は、北谷拡幅や読谷道路等の整備を行う。県は、当該事業の促進を図るため、引き続き国に対し、早期整備や必要予算の確保等の要望を行う。	
予算事業名 国直轄事業県負担金(国道58号)							R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画	
主な財源	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	OH30年度: 国は、北谷拡幅や読谷道路等の整備を行った。県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回(5月、11月)行った。	
県単等	負担	419,675	353,994	386,478	389,195	164,000	103,000	県単等	OR元(H31)年度: 国は、北谷拡幅や読谷道路等の整備を行う。県は、当該事業の促進を図るため、引き続き国に対し、早期整備や必要予算の確保等の要望を行う。	

様式1(主な取組)

活動指標名	読谷道路、北谷拡幅、浦添北道路、那覇北道路等の整備				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		整備の実施	整備の実施	整備の実施	整備の実施	整備の実施	—	100.0%	164,000	順調
活動指標名	—				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
活動指標名	—				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				

(2)これまでの改善案の反映状況

平成30年度の取組改善案	反映状況
①県としては、国に対し、早期整備の要望を積極的に行う。	①県は国に対し、当該事業の促進を図るため、早期整備等の要望を2回(5月、11月)行った。

様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

—

○外部環境の変化

・本県の自動車保有台数は毎年2%程度増加しているほか、レンタカー車両数は約12%増と高い伸びを示している。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・自動車保有台数やレンタカーの増加等に伴い、今後もさらなる交通量の増加が見込まれることから、当該道路の早期整備が望まれる。



4 取組の改善案(Action)

・引き続き国に対し、早期整備の要望を2回行う。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(1)-ウ	陸上交通基盤の整備	施策	① 各拠点を結ぶ道路網の整備
			施策の小項目名	○陸上交通基盤の整備
主な取組	ハンゴ道路等ネットワークの構築		実施計画記載頁	177
対応する主な課題	②道路は県民生活や経済活動を支える上で重要な役割を果たしているが、広域交流拠点と各圏域拠点間の有機的な連結が実現しておらず、交通渋滞が慢性化している状況であることから、体系的な幹線道路ネットワークの早期構築が必要である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	年度別計画				
	H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
都市部の渋滞緩和、観光支援及び物流の効率化等を図るため、本島南北軸・東西軸を有機的に結ぶハンゴ道路をはじめとする幹線道路ネットワークの整備を行う。			浦添西原線(嘉手苅~小那覇)供用		
実施主体	県				
担当部課【連絡先】	土木建築部道路街路課		【098-866-2390】		
	浦添西原線、宜野湾北中城線、県道24号線BP、南部東道路、上之屋道路等の整備				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名 地域連携推進事業費(地域高規格道路)							R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
内閣府計上	直接実施	763,055	840,031	1,855,703	1,634,770	1,645,742	3,439,574	内閣府計上	○H30年度: 南部東道路(橋梁工事、改良工事等)の整備を行った。 ○R元(H31)年度: 南部東道路(用地買収、橋梁工事、改良工事等)の整備を行う。
予算事業名 社会資本整備総合交付金(道路)							R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
内閣府計上	直接実施	7,996,153	5,163,282	6,897,653	5,563,770	3,519,819	6,726,050	内閣府計上	○H30年度: 宜野湾南風原線及び東風平豊見城線の一部区間を4車線で供用したほか、浦添西原線(道路改良等)等の整備を行った。 ○R元(H31)年度: 浦添西原線(改良工事等)、宜野湾北中城線(改良工事等)等の整備を行う。

様式1(主な取組)

予算事業名 沖縄振興公共投資交付金(街路)							R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
一括交付金(ハード)	直接実施	5,403,449	6,584,954	5,094,267	3,220,178	2,150,218	5,347,577	内閣府計上	○H30年度: 真地久茂地線外1線(用地補償等)、汀良翁長線(用地補償等)、那覇内環状線(橋梁工事等)等の整備を行った。 ○R元(H31)年度: 真地久茂地線外1線(用地補償等)、豊見城中央線(用地補償等)、胡屋泡瀬線(用地補償等)等の整備を行う。

様式1(主な取組)

活動指標名	浦添西原線、宜野湾北中城線、県道24号BP、南部東道路、上之屋道路等の整備				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
		整備の実施	整備の実施	整備の実施	整備の実施	整備の実施	—	100.0%	7,315,779	順調
活動指標名	—				H30年度					
実績値	—	—	—	—	—	—				
活動指標名	—				H30年度					
実績値	—	—	—	—	—	—				

(2)これまでの改善案の反映状況

平成30年度の取組改善案	反映状況
①国、関係市町村等と連携しながら、ハシゴ道路ネットワーク構築を重点的に推進し、早期完成供用を目指すとともに、部分的な開通等により、事業の早期効果発現を図る。 ②継続事業箇所主要渋滞箇所が含まれる場合は、先行して交差点部の改良を行うなど、早期の渋滞緩和に取り組む。	①南部東道路や宜野湾北中城線の部分供用開始に向けて、整備を推進した。 ②東風平豊見城線の4車線整備により、主要渋滞箇所である豊見城交差点の改良を行った。



様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)	
(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)	
○内部要因	○外部環境の変化
—	・本県の自動車保有台数は毎年2%程度増加しているほか、レンタカー車両数は約12%増と高い伸びを示している。
(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)	
・自動車保有台数やレンタカーの増加等に伴い、今後もさらなる交通量の増加が見込まれることから、国や関係市町村等と連携し、ハシゴ道路ネットワークを早期に構築する必要がある。 ・沖縄地方渋滞対策推進協議会で抽出された主要渋滞箇所において、渋滞緩和に向けた早期の対策が求められている。	



4 取組の改善案(Action)
・国、関係市町村等と連携しながら、ハシゴ道路ネットワーク構築を重点的に推進し、早期完成供用を目指すとともに、部分的な開通等により、事業の早期効果発現を図る。 ・継続事業箇所主要渋滞箇所が含まれる場合は、先行して交差点部の改良を行うなど、早期の渋滞緩和に取り組む。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(1)-ウ	陸上交通基盤の整備	施策	① 各拠点を結ぶ道路網の整備
			施策の小項目名	○陸上交通基盤の整備
主な取組	渋滞ボトルネック対策		実施計画記載頁	177
対応する主な課題	②道路は県民生活や経済活動を支える上で重要な役割を果たしているが、広域交流拠点と各圏域拠点間の有機的な連結が実現しておらず、交通渋滞が慢性化している状況であることから、体系的な幹線道路ネットワークの早期構築が必要である。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
本県における慢性的な交通渋滞の緩和に向けて、国や県の関係行政機関等で構成する沖縄地方渋滞対策推進協議会にて特定された主要渋滞箇所において、道路整備に伴う交差点改良とともに、短期的に実施可能な渋滞対策を行う。		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
		5箇所	5箇所	5箇所	5箇所	5箇所
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	土木建築部道路街路課		【098-866-2390】			
		牧港、鳥堀、沖縄南IC、渡口等、主要渋滞箇所の交差点改良				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況							(単位:千円)		
予算事業名 沖縄振興公共投資交付金(道路)							R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: 牧港や鳥堀等、5箇所において交差点改良を行った。 ○R元(H31)年度: 沖縄南ICや泡瀬等、5箇所以上で交差点改良を行う。
							870,653	一括交付金(ハード)	
一括交付金(ハード)	直接実施	—	—	—	51,808	168,022			
予算事業名 —							R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: ○R元(H31)年度:

様式1(主な取組)

活動指標名	主要渋滞箇所の交差点改良				H30年度			H30年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要 牧港や鳥堀等、5箇所の交差点改良を行った。
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	4箇所	5箇所	5箇所	100.0%	168,022	順調	進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 対策箇所数の計画値5箇所に対し、実績値が5箇所のため、順調とした。 取組後の効果として、広域交流拠点と各圏域拠点間のアクセス改善が図られ、県民生活や観光客の利便性向上及び産業の振興に寄与する。
活動指標名	—				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
活動指標名	—				H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	—	—	—	—	—	—				
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成30年度の取組改善案						反映状況				
①施工の前年度までに設計を完了するなど、円滑な事業執行に向けて、土木事務所における執行体制の改善を図る。						①土木事務所内において、渋滞対策に係る業務を分担し、次年度発注工事の実施設計を年度内にとりまとめた。				

様式1(主な取組)

3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

○内部要因

—

○外部環境の変化

・土木工事の発注において、入札不調や不落が相次いでいる。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・発注時期の前倒しや入札方式の見直し等、不調不落対策に取り組む必要がある。



4 取組の改善案(Action)

・渋滞対策の着実な推進に向けて、入札方式の見直しや対策工事の早期発注に取り組む。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(1)-ウ	陸上交通基盤の整備	施策	② 公共交通システムの充実
			施策の小項目名	○都市モノレールの整備
主な取組	沖縄都市モノレール延長整備事業		実施計画記載頁	178
対応する主な課題	③自動車から公共交通への転換を促進させるため、公共交通の需要喚起、利用促進に努める他、自動車と公共交通及び公共交通機関相互の結節機能を向上させ、定時定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークを形成する必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	年度別計画				
	H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
首里駅から沖縄自動車道(西原入口)までモノレールを延長し沖縄自動車道と結節を図ることで、定時で利便性の高い公共交通ネットワークを形成・拡大させ、本島中北部のアクセス性向上に寄与する。また、自動車から公共交通機関への転換を促し、那覇都市圏の渋滞緩和に寄与する。	79% モノレール延長整備事業進捗率	100%	供用開始		
実施主体	県、市、事業者				
担当部課【連絡先】	土木建築部都市計画・モノレール課 【098-866-2408】				
	<ul style="list-style-type: none"> ・延長区間: 那覇市首里汀良町(首里駅)～浦添市前田 ・延長距離: 4.1km(4駅) ・終着駅と沖縄自動車道とを接続するためICを整備 				

2 取組の状況(Do)

(1) 取組の進捗状況 (単位: 千円)

予算事業名	沖縄都市モノレール道整備事業費						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
	主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	
一括交付金(ハード)	補助	4,638,356	12,422,371	14,746,257	18,830,767	13,502,488	8,410,238	一括交付金(ハード)	○H30年度: 沖縄都市モノレールインフラ部における駅舎、自由通路や交通広場の整備を行った。 ○R元(H31)年度: 沖縄都市モノレールインフラ部における自由通路や交通広場の整備を行う。

様式1(主な取組)

予算事業名							R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画	
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源		
		-	-	-	-	-	-		○H30年度: - ○R元(H31)年度: -	
活動指標名	モノレール延長事業進捗率				H30年度			H30年度決算見込額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名	幸地IC(仮称)整備進捗率				H30年度			13,502,488	概ね順調	モノレールインフラ部について、駅舎工事や自由通路の工事を実施した。関連道路・街路等については橋梁の橋面工事や道路拡幅工事を実施した。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 沖縄都市モノレール(株)によるインフラ外部工事は順調に進捗しているが、幸地IC(仮称)の用地買収遅れなどにより、進捗状況は概ね順調となった。 沖縄都市モノレール延長事業におけるインフラ部は上下部工事や駅舎工事が完了しており、残事業は自由通路の工事となっている。
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
活動指標名	-				H30年度			13,502,488	概ね順調	モノレールインフラ部について、駅舎工事や自由通路の工事を実施した。関連道路・街路等については橋梁の橋面工事や道路拡幅工事を実施した。 進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 沖縄都市モノレール(株)によるインフラ外部工事は順調に進捗しているが、幸地IC(仮称)の用地買収遅れなどにより、進捗状況は概ね順調となった。 沖縄都市モノレール延長事業におけるインフラ部は上下部工事や駅舎工事が完了しており、残事業は自由通路の工事となっている。
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			

様式1(主な取組)

(2)これまでの改善案の反映状況	
平成30年度の取組改善案	反映状況
<p>①モノレール延長整備事業第4駅(てだこ浦西駅)周辺を含むモノレール延長区間の整備及びパークアンドライド駐車場の整備について、県、地元市及び沖縄都市モノレール(株)との間で、調整会議を開催し連携していくとともに、工程計画を共有するなど、事業の円滑な実施に取り組む。</p> <p>②関連道路の整備については、用地取得に際して地元町の協力も得ながら早期に補償物件の撤去を促すなど、工事を推進する。</p>	<p>①県、地元市、沖縄都市モノレール(株)との間で、調整会議を開催し、各事業の工程などについて情報共有を図った。</p> <p>②幸地ICに関する用地取得について、地元町とともに地権者との交渉を継続的に行った。</p>



3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)	
<p>○内部要因</p> <ul style="list-style-type: none"> モノレール延長整備事業について、これまでのインフラ上下部工(桁、支柱)整備や駅舎の工事は完了している。今後は自由通路並びにモノレール株式会社が行うインフラ外部(電車線路、信号通信、駅施設設備)の整備を予定している。 また、モノレール延長整備事業第4駅(てだこ浦西駅)周辺は、モノレール延長整備事業の他、幸地インターチェンジ(仮称)及び県道浦西停車場線整備事業、パークアンドライド駐車場整備事業、県道浦添西原線の橋梁整備事業、浦添市の第4駅周辺まちづくり等、多数の事業が集中している。 	<p>○外部環境の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> 延長開業に必要な用地の取得は平成28年度で完了した。
(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)	
<ul style="list-style-type: none"> これまで整備を進めてきたインフラ部に加え、インフラ外部の工程も含めた工程計画を事業者間で共有する必要がある。 第4駅(てだこ浦西駅)周辺の整備については、各事業と充分連携を図るとともに、工程計画を事業者間で共有する必要がある。 関連道路に関しては工事工程に影響を与えないよう用地取得を図っていく必要がある。 	

様式1(主な取組)



4 取組の改善案(Action)

<ul style="list-style-type: none"> モノレール延長整備事業第4駅(てだこ浦西駅)周辺を含むモノレール延長区間の整備及びパークアンドライド駐車場の整備について、県、地元市及び沖縄都市モノレール(株)との間で、調整会議を開催し連携していくとともに、工程計画を共有するなど、事業の円滑な実施に取り組む。 関連道路の整備については、用地取得に際して地元町の協力も得ながら早期に取得し工事を推進する。
--

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	3-(1)-ウ	陸上交通基盤の整備	施策	② 公共交通システムの充実
			施策の小項目名	○都市モノレールの整備
主な取組	パークアンドライド駐車場の整備(第4駅周辺等)			実施計画記載頁 178
対応する主な課題	③自動車から公共交通への転換を促進させるため、公共交通の需要喚起、利用促進に努める他、自動車と公共交通及び公共交通機関相互の結節機能を向上させ、定時定速かつ利便性の高い公共交通ネットワークを形成する必要がある。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容	年度別計画				
	H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
モノレール第4駅(てだこ浦西駅)交通広場に隣接しパークアンドライド駐車場を整備することで、定時で利便性の高い公共交通ネットワークを形成し、公共交通機関の利用促進による渋滞緩和及び運輸部門の低炭素化の促進に寄与する。	922台 パークアンドライド 駐車・駐輪台数		1,922台		
	・延長区間第4駅周辺での大規模駐車場の整備(1,000台規模) ・モノレール駅交通広場での駐輪場の整備				
実施主体	県、市				
担当部課【連絡先】	土木建築部都市計画・モノレール課 【098-866-2408】				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)									
予算事業名 都市モノレール効果促進事業									
主な財源	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
							当初予算額	主な財源	
一括交付金(ハード)	補助	7,328	7,776	470,677	583,021	813,248	1,741,902	一括交付金(ハード)	○H30年度: パークアンドライド駐車場の本体の建築工事や取付橋梁の工事を行った。 ○R元(H31)年度: 引き続きパークアンドライド駐車場の本体の建築工事や取付橋梁の工事を行う。

様式1(主な取組)

予算事業名 —										
主な財源	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画	
							当初予算額	主な財源		
		—	—	—	—	—	—		○H30年度: — ○R元(H31)年度: —	
活動指標名	パークアンドライド駐車・駐輪台数				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
実績値	—	—	—	—	922台	922台	100.0%			
活動指標名	—				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
実績値										
活動指標名	—				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
実績値										

様式1(主な取組)

(2)これまでの改善案の反映状況	
平成30年度の実施改善案	反映状況
①パークアンドライド駐車場整備事業を円滑に実施するため、発注者及び関連工事施工者との間で調整会議等を開催する。	①県、地元市、沖縄都市モノレール(株)との間で、調整会議を年2回開催し、各事業の工程などについて情報共有を図った。



3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)	
<u>○内部要因</u> ・パークアンドライド駐車場整備を予定している延長区間第4駅周辺は、モノレール延長整備事業の他、モノレールと高速道路結節のための幸地IC及び県道浦西停車場線整備事業、県道浦添西原線の橋梁整備事業、浦添市の第4駅周辺まちづくり等、事業が輻輳している。	<u>○外部環境の変化</u> -
(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)	
・各事業間の工程計画(法手続や工程上ネックとなる箇所)の情報共有を図る必要がある。	

様式1(主な取組)



4 取組の改善案(Action)

・パークアンドライド駐車場整備事業を円滑に実施するため、発注者、関連工事施工者との間で、調整会議等を開催する。
